

高等学校英語科の先生・教育委員会関係者対象

『CEFR A2からB1へ： 検定教科書を活用した 英語運用力育成を目指す授業』

明治大学附属中野中学校・高等学校 英語科教諭

元東京都専門性向上研修 講師

ETS公認TOEFL Primary® / TOEFL Junior® トレーナー

一般社団法人国際教育英語試験協会 アドバイザー

田中 周作

- 1. はじめに～CEFR A2からB1の壁と日本の英語教育～・・・ p.2
 - 1.1 A2～B1の壁と日本の英語教育・・・・・・・・・・・・・・・・ p.2
 - 1.2 ETS公認トレーナーの認定ワークショップで確認できたこと P.2
- 2. 検定教科書本を活用した運用力向上を目指した指導・・・ p.4
 - 1) オーラルイントロダクション(Oral Introduction)・・・・・・ p.5
 - 2) 語彙指導(Vocabulary Check)・・・・・・・・・・・・・・・・ p.8
 - 3) 音読(Reading Aloud)・・・・・・・・・・・・・・・・ p.11
 - 4) オーラルインタラクティブ(Questions and Answers)・・・・ p.14
 - 5) リテリング(Retelling / Reproduction)・・・・・・・・ p.18
 - 6) ライティング(Essay Writing)・・・・・・・・ p.21
- 3. おわりに：CEFR A2からB1への架け橋としての授業設計・・・ p.23
 - ※日本語訳・・・・・・・・・・・・・・・・ p.24

田中 周作

【所属】 明治大学附属中野中学校・高等学校 英語科教諭

【学歴】 東京学芸大学大学院教育研究科修了

【活動】 2014年 東京都教育研究員

2015-2016年 東京都教師道場 助言者

2016年 東京都若手教員育成研修、および、東京都専門性向上研修 講師

2018年 英検協会主催英語教員海外研修に参加し、The University of New South Walesで英語教授法を学ぶ

2022年 鹿児島県教育委員会主催 外国語指導助手の指導力向上研修 基調講演

2023年 国際教育ナビ主催のワークショップでは、ラップ（ヒップホップ）の英語学習への応用というテーマで、HIPHOP ENGLISH SCHOOLを開講

2024年 中部地区英語教育学会 三重地区 特別講演

2024年 ETS公認TOEFL Primary® / TOEFL Junior®トレーナーに認定

2024年 株式会社ダンケゼア公認アドバイザーに就任

【その他の活動】 Apple Teacherの認定を受けており、iPadを効果的に活用した英語授業に取り組んでいる。剣道五段、合気道三段、スキー1級のスキー部顧問
趣味は、ランニング、釣り、海外旅行、動画編集など

【主な著書】 『英文法短期定着トレーニング Speed Grammar 1-5』（文英堂, 2024）監修

『All Set 高校英語入門 Reading & Grammar』（文英堂, 2025）監修

『All Set 高校英語入門 Grammar』（文英堂, 2025）監修

『英語の授業と家庭学習が変わる5領域別ICT活用術』（大修館書店, 2025）著者

1.はじめに ～ CEFR A2からB1の壁と日本の英語教育 ～

1.1 A2～B1の壁と日本の英語教育

CEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)において、A2からB1へとレベルを上げる際には、単なる語彙量の増加にとどまらず、構文の複雑さや論理的な文章構成、多様な表現の使用といった「質的な変化」が求められます。多くの日本の高校生がA2レベルにとどまり、B1レベルに到達できていない背景には、「意味のあるアウトプットの機会が不足していること」「文構造の指導が十分でないこと」「評価が形式的であること」「教科書タスクの活用が不十分であること」などが挙げられます(大津, 2020)。

これらの課題の中でも、特に「教科書タスクの活用不足」を解消し、同時に「意味のあるアウトプットの機会」を十分に確保することができれば、より多くの生徒がA2からB1への移行を達成できるのではないかと考えています。

特に高校段階では、中学校に比べて教科書の英文が格段に長くなります。そのため、授業時間の多くが英文解釈や構文の解説に費やされる傾向があるように感じます。しかし、今後の英語教育において重要なのは、そうした解説の時間を必要最小限にとどめ、生徒が実際に英語を使ってみる時間をいかに

に確保するかという点です。

英語の運用力を高めるために授業で行える活動は多岐にわたりますが、毎回スピーキングやライティングのアクティビティを準備するのは教員にとって大きな負担です。また、授業時間の制約の中で、教科書の進度を確保しなければならないという現実的な課題もあります。

近年の学習指導要領に基づいて作られた新課程の教科書には、英語運用力の向上を目的とした多くのタスクやアクティビティが盛り込まれています。しかし、現場では「時間がない」などの理由で、これらの活動が後回しにされてしまうことも少なくありません。

とはいえ、検定教科書は、英語教育の専門家たちが知恵を結集して作り上げた非常に優れた教材です。各レッスンに設定されているタスクやアクティビティを積極的に活用することによって、生徒の英語運用力は確実に向上していくと私は考えています。

本稿では、私自身の授業実践をもとに、具体的な指導法を紹介しながら、CEFR A2からB1への移行を支えるための現実的かつ効果的なアプローチを提案してまいります。

1.2 ETS公認トレーナーの認定ワークショップで確認できたこと

TOEFL Junior®のテストは、特定の国のカリキュラムに偏らず、世界中の教育課程を参考に作られていることが、TOEFL Junior®テスト公式問題集 [改訂版] にも明記されています。実際にETS公認トレーナーのワークショップに参加する中で、その

理念が強く感じられました。

ワークショップでは、英語力だけでなく、情報を整理し、自分の考えを英語で伝える力が重視されていることが印象に残りました。これはまさに、CEFRのB1以上に求められる力でもあります。さらに、これは私

自身がこれまでの授業実践の中で感じていたこととも重なります。たとえば、教科書本文をただ和訳して終わるのではなく、そこから生徒自身の考えを引き出し、それを英語で伝えさせる時間をもっと確保する必要があると感じました。英語によるやり取りを意識して授業を進めること、そして英語でのアウトプットの場面を日常的に取り入れることの重要性を改めて実感しました。

新課程の教科書にあるタスクには、まさにこうした力を育むための要素が随所に組み

込まれています。しかし、先述したように、限られた授業時間の中で、つい英文解説に時間を費やしてしまい、タスクは後回しにされがちです。ワークショップを通じて得た最大の学びは、タスクは「余裕があればやる」ものではなく、「英語を使う場」として授業の中心に据えていくべきものだ、ということでした。そうすることで、生徒が英語を「教科」ではなく「言語」として実感しながら学んでいく姿勢が育つのではないかと思います。

(TOEFL Junior®テスト公式問題集 [改訂版] p. 8)

7. TOEFL Junior Standard テストスコアの妥当性は？

TOEFL Junior Standard テストは、英語で教え、英語で学ぶアカデミックな環境におけるコミュニケーション能力を正確に測定するよう作られています。テストは中学・高校生に求められる言語タスクで構成されています。

これらのタスクは、次のものを含む幅広いソースに基づいているのが特徴です。

- ◆ 英語が外国語として教えられている国(例えば、チリ、中国、フランス、韓国、日本)における英語の基準、カリキュラム、教科書
- ◆ アメリカ合衆国の中学校・高校の英語学習者を対象とした英語運用能力の基準(例えば、カリフォルニア、コロラド、フロリダ、ニューヨーク、テキサス州の基準など)
- ◆ 経験豊富な言語測定専門家からの提案
- ◆ アカデミックな状況で使われる文献

収集されたデータの慎重な分析の結果、以下の3つの分野が重要であることが明らかになりました。

- ◆ **Social and Interpersonal**: 「社会的・対人的分野」は、人間関係を築き維持するために使われる英語の範囲です。例えば、生徒は、くだけた会話で友人が言っていることを理解したり、友人や先生からの個人的なEメールを読むことができなければなりません。
- ◆ **Navigational**: 「指示的分野」は、学校や学科に関係した内容について、仲間、先生、他の学校スタッフとコミュニケーションをとるための英語の範囲です。例えば、宿題について、先生の口頭での指示を理解したり、学校関連のお知らせから重要な情報を得ることができなければなりません。
- ◆ **Academic**: 「アカデミックな分野」は、アカデミックな内容を学習する際に必要な英語の範囲です。例えば、いろいろな教科の授業や講義で話される意見や、書かれた文章を理解したりすることを含みます。

TOEFL Juniorテストの作成においては、世界中のカリキュラムが参考にされました。TOEFL Juniorテストは何か1つのカリキュラムに依存しているわけではないので、自分に合った教材を使い続けるとよいでしょう。

言語スキルを向上させるには多くの勉強や練習の時間を必要とし、TOEFL Juniorテストはその進歩を測定するためのものです。

2. 検定教科書を活用した運用力向上を目指した指導

ここでは、大修館書店の英語コミュニケーションⅠの検定教科書『Crossroads English Communication I』を使用した、具体的な授業実践例をご紹介します。教科書の本文やタスクをどのように活用すれば、生徒の英語運用力を効果的に高めることが

できるのかという視点から、実際の指導例を取り上げていきます。

下記に、教材として取り上げた『Crossroads』のUnit 2, Passage 1の本文を掲載します。

●Crossroads English Communication I Unit 2 “Is That True?” Passage 1

There have been many great inventions in history, for example, the wheel, paper, and the steam engine. Inventions can change people's lives. They can create new business and new culture. This is especially true for two recent inventions - personal computers and the Internet. The Internet has become an important kind of media, an important means of communication for many people. This new media form is different from older forms, such as print media (books, newspapers, and magazines) and broadcast media (radio and television) in at least two ways.

First, people can get and send information easily on the Internet. They can access information at almost any time. People can use the Internet to communicate in many ways. It's easy to send pictures, videos, and messages, so people are sending and viewing a lot of them. However, this may also be a problem. People are spending too much time on their smartphones and computers.

A second difference is content. With other media, such as newspapers, magazines, TV, and radio, the content is usually made by a limited number of professionals. However, nowadays, almost anyone can get much more information, but we have to be careful. We don't always know who made the content, and some of the information

may be incomplete or incorrect.

The Internet has become an important way to get and share information. We won't know the real effect of the differences between the Internet and other media for years. However, one thing is clear now. It has already become an essential part of our culture.

※日本語訳は巻末をご参照ください。

本稿で紹介する検定教科書を用いたタスク一覧

- 1) オーラルイントロダクション(Oral Introduction)
- 2) 語彙指導(Vocabulary Check)
- 3) 音読(Reading Aloud)
- 4) オーラルインタラクション(Questions and Answers)
- 5) リテリング(Retelling / Reproduction)
- 6) ライティング(Essay Writing)

1)オーラルイントロダクション(Oral Introduction)

オーラルイントロダクションとは、これから読む英文に関連する話題について、教師が口頭で導入を行う活動を指します。一方的に英語で話すのではなく、生徒とインタラクションを取りながら英語でやり取りすることが望ましく、授業内での英語のインプットとアウトプットの量を増やすことができます。また、この導入によって、読むことへの動機付けがなされ、新出語彙やキーワードの導入も効果的に行うことができます。

私たちが何かを読むとき、そこには必ず目的があります。たとえば、「何かを知るため」「興味があるから」「調べたいことがあるから」など、何らかの目的を持って読むのが自然です。目的もなく、いきなり本やインターネットの記事を読み始めると

いう状況は、現実にはほとんどありません。

しかし、英語の授業ではどうでしょうか。「では今日からレッスン2の本文を読みましょう」「読み終わったら教科書の質問に答えましょう」といった指導がされることは少なくありません。そのような進め方では、生徒が読む目的を持たないまま英文に向き合うことになりかねません。生徒には、「なぜ読むのか」「何を知りたいのか」といった目的意識やモチベーションを持って英文に取り組んでほしいものです。こうした意味で、オーラルイントロダクションは非常に有効な手法です。

たとえば、『Crossroads English Communication I』のPassage 1(Unit 2)の冒頭には、次のような導入質問が掲載されています。

1.What do you use most often to get new information?

a) books b) Internet c) newspaper d) TV

2.Why do you use it/them?

※日本語訳は巻末をご参照ください。

これらの問いに対して「各自で答えなさい」とだけ指示するのは、せっかくの質問を十分に活用しているとは言えません。たとえば、次のように教師が全体に問いかけ

ながら、生徒の反応を引き出す形にすることで、英語によるインタラクションが生まれます。

(T: Teacher / S: Student)

T: What do you use most often to get new information? Who uses books most often?

Raise your hands. Who uses the Internet most often? (…中略…)

In this class, many of you use the Internet most often to get new information. Then let me ask why you use the media.

Shohei, what do you use most often to get new information?

S: I use the Internet most often.

T: Why do you use the Internet most often?

S: Because I can use the Internet on my smartphone, and it's easier to get new information than other media.

※日本語訳は巻末をご参照ください。

このように、全体から個人へと問いかけながらやり取りすることで、生徒の考えを引き出し、内容理解も深まります。

現在では、中学校・高校ともに「1人1台端末」の環境が整っていることが多いため、ICTを活用することで全員の意見を効果的に集めることが可能です。たとえば、上記の質問のうち1問目のような4択形式の質問には、ロイノートのアナケート機能や、Slido (<https://www.slido.com/jp>)やMentimeter (<https://www.mentimeter.com>)

などのアンケートアプリを使えば、一瞬で生徒の回答をグラフ化することができます。また、2問目のように自由記述が求められる問いでも、これらのツールを使えば生徒の多様な回答を黒板やホワイトボードにリアルタイムで表示でき、そこからさらに深い対話へと展開することができます。

そのような状況でのやり取りの一例を次のページに示します。

T: According to the survey, two students use newspapers to get new information, while most of you use the Internet.

Who uses newspapers? Could you please raise your hands if you don't mind?

Oh, Tatsuya. Thank you very much for letting me know. Can I ask you why you use newspapers to get new information?

S: Sure. First of all, I don't have a smartphone, unlike many of my classmates. My parents are very strict and don't allow me to have one—probably because they're worried about the bad influence of social media. Instead of the Internet, I read a newspaper every day, and that's how I get the latest information.

T: Okay, thank you very much for sharing your example, Tatsuya. I'm impressed with your habit of reading a newspaper every day, because few young people read newspapers these days.

T: Then, as I mentioned earlier, most of you use the Internet because you have your own smartphones. Can anyone share how often you use the Internet and what you use your smartphone for?

How about you, Makiko?

S: I use my smartphone every day. I use the Internet, social media, and some game apps. I think I should limit the time I spend on my phone because I'm kind of addicted to it.

T: Thank you for sharing, Makiko. The class survey shows that most of you, like Makiko, use the Internet on your smartphones almost every day.

Many years ago, when I was your age, we didn't have the Internet or smartphones, so most of us used other media like books, newspapers, or TV.

What are the differences between the Internet and other media? Are there any dangers we should be aware of when using the Internet?

Now, please discuss these questions with your partners.

※日本語訳は巻末をご参照ください。

このようなオーラルイントロダクションによって、生徒のスキーマ(既有知識や経験、記憶)を活性化することができ、英文を読む前の準備として極めて有効です。読む活動

に対する動機付けや目的意識が明確になることで、英文読解の意義や達成感がより一層高まります。

2) 語彙指導(Vocabulary Check)

英語運用力の向上を目指す上で、語彙指導も「英語で」行うことが効果的です。とりわけ「英語による語義理解(英英定義)」は、語彙の意味記憶を深め、記憶に留めるだけでなく、実際に使いこなすための「操作的知識(productive knowledge)」へとつなげる上で有効であるとされています(Nation, 2001)。ここでは、新出語彙の意味を英語で推測させる活動と、語彙の復習を英語で行う活動、それぞれの実践例をご紹介します。

語彙の導入や復習も英語で行うことで、

生徒が授業内で触れる英語のインプット量は格段に増えます。ICTがまだ広く導入されていなかった10年ほど前は、英和辞典や英英辞典を引きながら、新出語彙の定義や例文を準備していました。こうした作業には多くの時間を要しました。

現在では、ChatGPTなどの生成AIを授業準備段階から活用することで、こうした作業を迅速かつ効果的に行うことができます。以下では、ChatGPTを用いて語彙指導(語彙導入と語彙復習)をどのように準備・実践できるかを紹介します。

● 新出語彙の意味を英語で確認するための例文作成プロンプト

Please create a list of example sentences using each of the following new vocabulary words. However, please make sure that the meaning of the new vocabulary can be easily imagined from the example sentences.

(以下の新出単語を使った例文リストをそれぞれ

作成してください。ただし、例文から新出単語の意味が容易に想像できるようにしてください)

対象語彙：

- | | |
|---------------|--------------|
| 1. Steam | 2. recent |
| 3. broadcast | 4. upload |
| 5. incomplete | 6. incorrect |
| 7. effect | 8. essential |

● ChatGPTからの出力例

1. steam

The water was so hot that steam rose from the cup.

(→ 湯気は熱い水から出るものだと理解できる)

2. recent

My brother got a new phone in a recent week.

(→ “recent” は「最近の出来事」と関連づけられる)

3. broadcast

The news was broadcast on TV last night for everyone to watch.

(→ “broadcast” は「多くの人に届けられる番組」というイメージが湧く)

4. upload

I want to upload my vacation photos to Instagram so my friends can see them.

(→ “upload” は「インターネット上に写真を送ること」と理解できる)

5. incomplete

My homework is incomplete because I didn't finish question number 5.

(→ “incomplete” は「終わっていない」ことを示す)

6. incorrect

The answer “Paris” is incorrect because the capital of Germany is Berlin.

(→ “incorrect” は「誤っている」ことを意味する)

7. effect

The medicine had a good effect—I feel much better now.

(→ “effect” は「結果」や「影響」の意味を理解できる)

8. essential

Water is essential for life. We cannot live without it.

(→ “essential” は「必要不可欠」であることを明示している)

※日本語訳は巻末をご参照ください。

このように生成された英文を活用し、生徒に英語の例文から語彙の意味を推測させる活動が可能になります。

● 語彙の定義文から単語を当てるクイズ作成プロンプト

語彙の復習には、生成AIを用いて定義文クイズを作成するのが有効です。以下のようなプロンプトを入力すれば、短時間で復習用の語彙クイズが作成できます。

Create a list of definitions for the following words. Each definition should be in the form of a question so that students can guess the word.

(次の単語の定義リストを作ってください。定義

は質問の形にして、生徒が語を推測できるようにしてください。)

対象語彙：

- | | |
|---------------|--------------|
| 1. steam | 2. recent |
| 3. broadcast | 4. upload |
| 5. incomplete | 6. incorrect |
| 7. effect | 8. essential |

● ChatGPTからの出力例(定義文クイズ)

1. What do you call the hot mist or gas that rises when water is boiled?
2. What word describes something that happened not long ago, like yesterday or last week?
3. What is the word for sending a TV or radio program so that many people can watch or listen to it at the same time?
4. What do you call it when you put a file, photo, or video onto the internet or a website?
5. What word means “not finished” or “missing some parts”?
6. What do you call something that is not true or not right, like a wrong answer?

7. What is the result or outcome of something, like what happens because of an action or event?
8. What word means “very important” or “necessary,” something you must have or do?

※日本語訳は巻末をご参照ください。

活動バリエーション

語彙定着を促すための活動として、以下の

3つのアプローチが考えられます。

① 教師主導型クイズ

教師がクイズを出題し、生徒が順に答えていく形式です。正解した生徒から着席させていく方法や、クラスサイズが大きい場合には、正解者のいる縦列(Line)または横列

(Row)ごとに着席させていく「Line or Row」などのゲームも効果的です(※詳細は本稿後半で述べます)。

② ペア活動(生徒主導型)

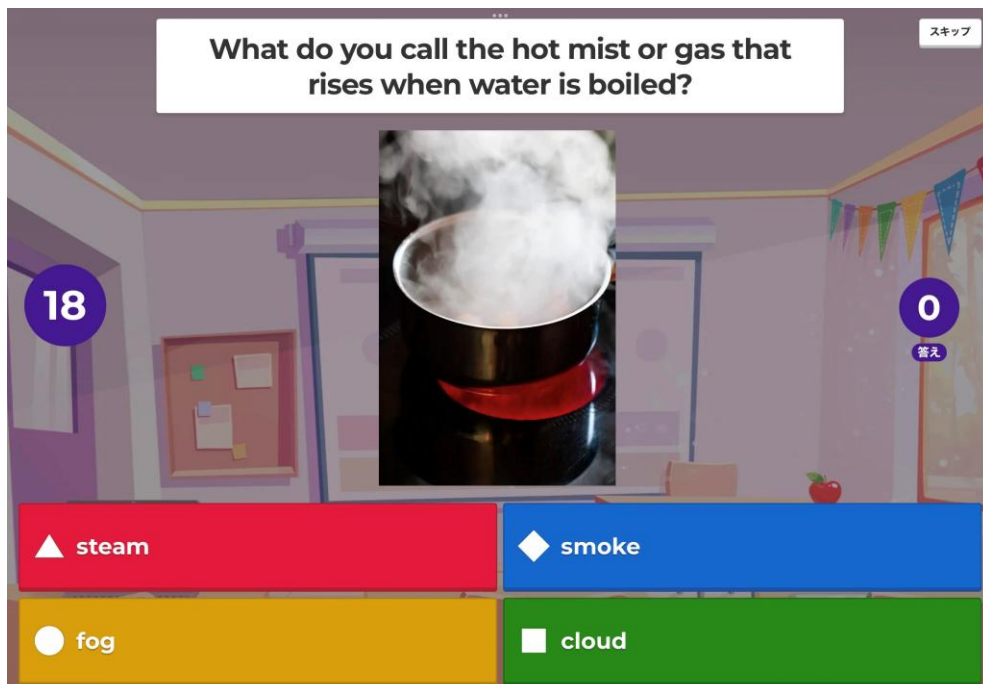
生徒が互いに問題を出し合うペアワークです。Information Gapのあるプリントを用意し(図参照)、一方の生徒が定義文を読み、

もう一方が語を推測する活動を行います。互いに交互に出題することで、双方向的な学びが生まれます。

③ Quizlet/Kahoot!等のアプリを用いたゲーム形式

クイズアプリを利用し、ゲーム感覚で語彙を復習させることも効果的です。ランキングや時間制限などの要素を取り入れること

ことで、生徒の集中力とモチベーションを高めることができます。



これら①～③の活動方法には、それぞれに利点があります。①から③に進むにつれ、教師の準備時間は増加しますが、それに伴って生徒一人ひとりの活動量や関与度も

高まります。その時々授業のねらいや時間配分を考慮し、適切に使い分けことが重要です。

3) 音読(Reading Aloud)

音読は、英語を英語のまま理解する脳を育てるうえで非常に重要な活動です。英文を音読しながら意味を理解していくことは、英語を日本語に翻訳せずに直接理解する力の育成につながります。そのため、初見の英文をいきなり音読することや、内容理解が不十分なまま音読活動に移ることはあまりおすすめできません。基本的には、意味理解の活動を十分に行った後に音読を取り

入れることが効果的です。

また、音読はリテリングやスピーチ、ディスカッションといった発展的な活動へとつなげていく際にも非常に有効です。繰り返し音読することで、語彙や表現が実際に使える形で定着していくからです。以下では、授業で活用できる基本的な音読活動から、やや発展的な活動まで、具体的な方法を整理して紹介いたします。

● Chorus Reading(コーラスリーディング：全体音読)

全員が教師や音声教材の後に続いて一斉に音読する方法です。正しい発音やイントネーションを模倣することが主な目的です。間違いが目立ちにくいので、生徒にとって

安心感がある点も利点です。ただし、単なる唱和にならないように、事前に意味理解や発音のポイントを押さえた指導を行う必要があります。

● Buzz Reading(バズリーディング：小声音読)

生徒が小さな声で同時に音読を行う活動です。ブンブンといった音が教室に響く様子から「buzz reading」と呼ばれています。個別練習に近い形式ですが、完全な独り読み

ではないため、緊張感が緩和されます。自分のペースで音読でき、発話量の確保にもつながります。

● Individual Reading(個人音読)

一人ひとりの生徒が順番に、クラス全体の前で音読を行う方法です。通常は一文または一段落ごとに交代していきます。生徒一人ひとりの音読状況を教師が把握でき、

必要に応じてフィードバックを行う機会となります。クラスメイトからのフィードバックも期待できます。

● Pair Reading (ペアリーディング：交互読み)

2人1組になり、交互に英文を音読する方法です。1文交代、1段落交代など、形式は自由に設定できます。音読だけでなくリス

ニングのトレーニングにもなり、自然に「そこはちょっと違うよ」などのフィードバックが生まれる場面も期待できます。

● Speed Reading(スピードリーディング)

意味の把握と音読の流暢さの両方を意識しながら、テンポよく読んでいく活動です。ペアでスピードを競わせると盛り上がりま

す。読解スピードの向上にもつながり、TOEFL Junior®のような時間制限付きのテスト対策としても効果があります。ただし、速く読むことだけが目的になり、意味理解が置き去りにならないよう注意が必要です。

● Credit Roll Reading(クレジットロールリーディング)

映画やテレビ番組のエンドロールのように、英文が下から上にスクリーン上で流れていく形式の音読です。パワーポイントなどを使って、表示時間をあらかじめ設定して

おき、英文が画面から消える前に読み上げることがルールです。ゲーム性があり、生徒の集中力とモチベーションを高めるのに効果的です。

history, for example, the wheel, paper, and the steam engine. Inventions can change people's lives. They can create new business and new culture. This is especially true for two recent inventions - personal computers and the

アニメーションの設定で本文が上に移動していく。
生徒は文字が消える前に音読することが求められる。

● Blanked Reading(ブランクリーディング：穴あき音読)

一部の単語やフレーズを空欄にした英文を音読する活動です。前後の文脈から空欄の語句を推測し補いながら読むことで、語彙力・文法力・読解力を統合的に育成しま

す。また、覚えた語彙や表現の確認にも活用できます。空欄の数や箇所、場合によっては日本語の挿入などで負荷の調整が可能です。

● Question and Answer Reading(QAリーディング：質問応答読み)

一斉音読の途中で教師が質問を投げかけ、生徒がそれに答えながら音読を続ける活動です。意味理解とアウトプットを統合した形式であり、生徒の集中力と注意力を高め

ることができます。質問は推論を必要とするものではなく、本文中の事実を問うシンプルな内容が望ましいです。次頁に例を示します。

<本文>

First, people can get and send information easily on the Internet. They can access information at almost any time. People can use the Internet to communicate in many ways. It's easy to send pictures, videos, and messages, so people are sending and viewing a lot of them. However, this may also be a problem. People are spending too much time on their smartphones and computers.

※日本語訳は巻末をご参照ください。

<QA Readingの例>

教科書を開いて一斉音読をしている最中に、教師が随時質問を挟んでいく形式です。生徒は意味理解を重視しつつ、どのタイミング

で質問が来るかわからないため、集中力を維持しながら音読を行うことが求められます。

(T: Teacher / Ss: Students)

T: First, people can get and send information easily on the Internet.

Ss: First, people can get and send information easily on the Internet.

T: Can people get and send information easily on the Internet?

Ss: Yes, they can.

T: They can access information at almost any time.

Ss: They can access information at almost any time.

T: People can use the Internet to communicate in many ways.

Ss: People can use the Internet to communicate in many ways.

T: It's easy to send pictures, videos, and messages, so people are sending and viewing a lot of them.

Ss: It's easy to send pictures, videos, and messages, so people are sending and viewing a lot of them.

T: What do people send on the Internet?

Ss: They send pictures, videos, and messages.

T: Takashi, what do people send on the Internet?

Ss: They send pictures, videos, and messages.

※日本語訳は巻末をご参照ください。

このように、多様な音読活動を段階的に導入していくことで、生徒は英文の意味を深く理解しながら、語彙や表現を自然に取り入れることができます。これらの活動は、リテリングなどの高度な発話活動への橋渡しとしても非常に有効です。逆に言えば、十分な音読のプロセスを経ずにリテリング

を行おうとすると、生徒には大きな負担となり、成功体験を得にくくなります。発話量を音読によって十分に確保しながら、徐々に負荷を上げていくことが、スムーズかつ効果的なリテリング指導への鍵となります。

4)オーラルインタラクション(本文内容に関するQA活動)

生徒の発話量を増やし、英語の運用力を高める上で、**QA(質問応答)**を中心とした生徒とのインタラクションは授業の軸となるべきです。QA活動は、教科書本文の導入前、内容理解の確認、あるいは本文読後の復習

など、様々なタイミングで実施可能ですが、ここでは「本文読後の復習場面」で行うQA活動に焦点を当て、その具体的なパターンを紹介します。

【「質問」と「発問」の使い分けの重要性】

効果的なQA活動を行うためには、「質問(Questioning)」と「発問(Prompting)」を意識的に使い分けることが重要です。

質問(Question)：答えが教科書本文内に
ある、確認的な問い。

発問(Prompt)：答えが一つに定まらず、
生徒の考えや意見を引き
出す問い。

学習内容の定着を図るうえでは、まず「質問」を多めに用いて理解度を確認することが基本ですが、それだけでは生徒の**応用力や即興的な発話力の育成には不十分**です。そこで、生徒の思考を促し、言語を選択しながら自分の意見を述べる必要がある「発問」を**適度に織り交ぜることが**、運用力向上には欠かせません。

具体例：教科書本文をもとにした「質問」と「発問」

<質問：本文に答えがあるもの>

1. What are three examples of great inventions in history?
→ The wheel, paper, and the steam engine.
2. What are the two recent inventions that changed people's lives?
→ Personal computers and the Internet.
3. What is one way the Internet is different from print and broadcast media?
→ People can get and send information easily.
4. Why do we need to be careful when using the Internet?
→ Because some information may be incomplete or incorrect.

※日本語訳は巻末をご参照ください。

< 発問：考えや意見を求めるもの >

5. What invention do you use every day?
→ I use my smartphone.
6. Do you like getting news from the Internet?
→ Yes, it's fast. / No, I like TV better.
7. Do you send pictures or videos online?
→ Yes, I often send pictures to my friends.
8. Do you think the Internet is good for school?
→ Yes, I can find information easily.

※日本語訳は巻末をご参照ください。

【生徒の実態に応じた「発問レベル」の調整例】

以下のように、発問のレベルを段階的に設計することで、**CEFR A2からB1へのスピー**

キング能力の発達を意図的に支援できます。

【ステップ1】 初級発問(A2程度)

目的：意見を単文で答える

例：Do you use the Internet every day?

→ Yes, I do. / No, I don't.

【ステップ2】 中級発問 (A2後半～B1前半)

目的：理由付きで答える

例：Why do you think the Internet is important?

→ It is important because we can get information quickly.

【ステップ3】 上級発問 (B1後半～B2)

目的：段落レベルで構成して話す／書く

例：What are the good and bad points of using the Internet for learning?

→ I think using the Internet for learning is helpful because we can find useful videos and articles. However, it can be a problem if students don't focus or find incorrect information.

※日本語訳は巻末をご参照ください。

【QA活動の4つのバリエーション】

生徒のモチベーションを維持し、発話機会を確保するためには、**活動の形式にも変化**

をつけることが重要です。以下に4つの代表的なQA活動のパターンを紹介します。

① 教師からの発問(一斉→個人)

教師がクラス全体に問いを投げかけた後、個別に生徒を指名することで、**全体の理解**

を確認しつつ、個人のアウトプットも促す方法です。

T: What are the two recent inventions that changed people's lives?(一斉質問)

Ss: Personal computers and the Internet.

T: Tatsuya, can you answer that?(個人質問)

S: Personal computers and the Internet.

T: Great. Do you use the Internet every day?(一斉発問)

Ss: Yes. / No.

T: Makiko, how about you?(個人発問)

S: Yes. I use it on my smartphone.

※日本語訳は巻末をご参照ください。

② Information Gap シートを使ったペアQA

左右に質問と回答例を配置したプリントを用いて、生徒同士でペアワークを行う形式です。**自分で質問を読み上げる必要があるため、発話量が自然に増えます。**

(例：左列に質問「Do you use the Internet every day?」、右列に回答例「Yes, I use it to watch YouTube.」)

Unit 2 Is That True? Passage 1 QA

Questions

1. What are three examples of great invention in history?
2. What are the two recent inventions that changed people's lives?
3. What is one way the Internet is different from print and broadcast cast media?
4. Why do we need to be careful when using the Internet?
5. What invention do you use every day?
6. Do you like getting news from the Internet?
7. Do you send pictures or videos online?
8. Do you think the Internet is good for school?

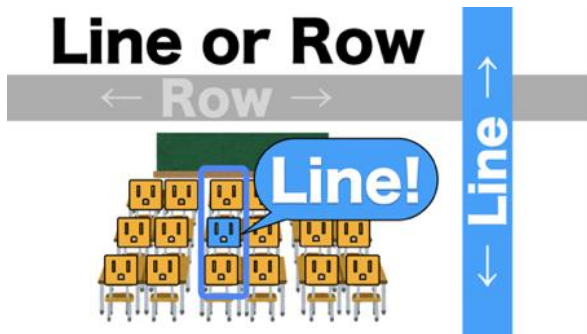
Sample Answers

1. The wheel, paper, and the steam engine.
2. Personal computers and the Internet.
3. People can get and send information easily.
4. Because some information may be incomplete or incorrect.
5. I use my smartphone.
6. Yes, it's fast. / No, I like TV better.
7. Yes, I often send pictures or videos online.
8. Yes, I can find information easily.

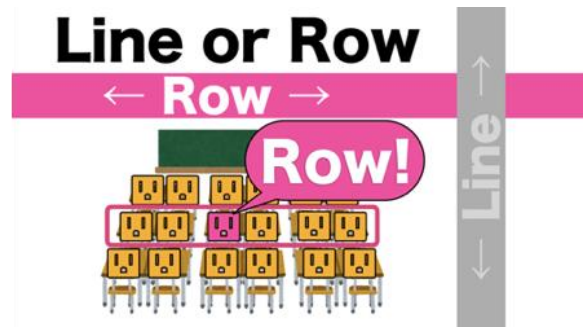


③ ゲーム形式のQA(Line or Row)

クラス全体で参加できるゲームです。質問に正解した生徒が「縦列(Line)」「横行(Row)」を選び、その列の生徒が着席できる



いうルールで、緊張感と盛り上がりの中でQA活動が可能です。クラスサイズが大きくても対応しやすい利点があります。



④ ICT活用(Kahoot! などのクイズアプリ)

Kahoot!(<https://kahoot.it>)などのクイズツールを使うことで、視覚的・競技的要素を取り入れたQA活動が可能です。特に「グループ対戦モード」では、生徒が同じ設問に何度も挑戦できるため、速く正確に

答える生徒と、じっくり考えて正答を目指す生徒の両方に対応できる点が魅力です。個人戦とグループ戦を使い分けることで、活動のバリエーションも広がります。



このように、「質問」と「発問」の使い分けと活動形式の工夫により、生徒一人ひとりの発話機会と認知的負荷を調整しつつ、実際の英語運用力の向上につなげることが

可能になります。継続的な指導の中で、生徒のレベルや反応に合わせて柔軟に設計することが、成功への鍵となります。

5) リテリング(Retelling / Reproduction)

リテリング(retelling)とリプロダクション(reproduction)は、いずれも英語授業において「読んだり聞いたりした内容を再構築する活動」として用いられますが、それぞれに明確な違いがあります。

リテリング：読んだり聞いたりした内容を、自分の言葉で順序立てて再構成しながら伝える活動です。特にストーリーや説明文などの内容について、要点を押さえながら話すことが求められます。そのため、内容理解が不十分ではリテリングはできません。言い換えや要約の力も試される活動です。流暢さは必ずしも求められませんが、「伝える順序」「因果関係」「登場人物の動機」などを論理的に再構成する力が必要です。

リプロダクション：読んだり聞いたりした英文を、できるだけ元の言語形式に近い形で再現する活動です。すなわち、文構造・語彙・表現を正確に再現することに重点が置かれます。教科書の英文を繰り返し真似て再生するような活動で、語彙・語順・文法の定着を目的とします。

現場の英語授業では、教科書本文の再話活動を「リテリング」と呼ぶことが多いですが、実際には、まず本文で習った語彙や文法事項をそのまま使い、教科書に近い形で再現する「リプロダクション」から始めている教師が多いのではないかと思います。

CEFR A2からB1への移行を目指す上では、この「リプロダクション」から「リテリング」へと発展させていく指導が非常に重要です。本文内容をしっかり理解したうえで、新出語彙や表現を活用しながらも、実際には言い換えや要約を伴って、内容を自分の言葉でまとめていけるようにすることが

求められます。

【リテリング指導の段階的展開】

以下に、具体的な「リテリング」活動の段階的な指導例を示します。

1. 教師によるお手本提示
2. キーワードや絵(図)を用いたリプロダクション
3. パラフレーズ練習
4. キーワードや絵(図)を用いたリテリング

このように段階的に活動を設定することで、単なる再生(リプロダクション)から、言い換え・要約を含む再構成(リテリング)へと移行していくことが可能になります。

モデル指導：教師のお手本とインタラクティブ

まずは教師がリテリングのお手本を示すことが極めて重要です。生徒とインタラクティブをしながらリテリングを行う方法が特に効果的です。本文内容について、生徒に質問しながら答えやキーワードを引き出し、それをもとに内容を一緒に再構築していく形式です。

この際、教師が黒板にキーワードやキーフレーズを書き残しながら進める方法も有効です。こうすることで、生徒が後のリテリング活動でそれらを手がかりとして活用できるようになります。教師が「ロールモデル」として示す姿勢も重要です。

「教科書の、英語表現をそのまま言うだけでなく少し言い換えてもよい」「相手に質問しながら、インタラクティブに行ってもよい」といったことを実演し、生徒がリテリング活動のゴールを具体的にイメージできるようにします。

<本文から生徒にさせたいリテリングの例>

There have been many important inventions, like the wheel, paper and the steam engine. Two recent inventions, personal computers and the Internet, have changed our lives a lot. The Internet is a new kind of media. It's different from books and TV in two ways. First, people can easily get and send information anytime. They use it to share pictures and videos, but they may spend too much time online. Second, content on the Internet is made by many people, not just professionals. This means we can get a lot of information, but some of it may not be true. The Internet is now a big part of our culture, and it's important to think about how we use it.

※日本語訳は巻末をご参照ください。

<教師によるインタラクションを介したリテリングのモデル例(改訂版)>

(T: Teacher / Ss: Students)

T: There have been many important inventions in history. Can you give me some examples?

Ss: The wheel. / Paper. / The steam engine.

T: Good! And what are two recent inventions that changed our lives?

Ss: Personal computers and the Internet. T: Yes. Now, the Internet is called a "new kind of media." How is it different from old media, like books or TV?

Ss1: You can send information easily.

T: Right. You can get and send information easily, anytime. What do people use it for?

Ss2: To share pictures and videos.

Ss3: To watch YouTube.

T: That's true. But is there any problem with using it too much?

Ss: You may spend too much time online.

T: Exactly. That's one difference. What's the second difference? Who creates the content on the Internet?

Ss1: Many people.

Ss2: Not only professionals.

T: Very good. So, is all the information on the Internet true?

Ss3: No, some is not true.

T: Yes, that's a big point. The Internet is a big part of our culture today, but we need to think about how to use it. Why do you think that is important?

Ss: Because it has both good and bad things.

T: Perfect. You understand it well.

※日本語訳は巻末をご参照ください。

このように、**インタラクションを通して生徒のキーワード発話や要約発話を引き出しながら、教師がそのつなぎ役としてリテリングを構築していく方法**が有効です。教師が一方的に話すのではなく、生徒が少しずつ再話の主導権を握っていきけるように支援することが重要です。

リテリングの力は、理解・再構成・伝達という言語活動の三要素を統合する高度な能力です。その力を育成するには、単なる暗記や再生(リプロダクション)にとどまらず、自分の言葉で話し直す経験の積み重ねが欠かせません。リテリング活動は、生徒の理解力・論理力・表現力を総合的に高めるとともに、CEFR A2からB1への移行に向けた橋渡しとなる重要なステップです。

【パラフレーズのコツとその指導実践】

リプロダクションからリテリングへとスムーズに移行するためには、生徒が自分の言葉で情報を再構築できる力、すなわち「パラフレーズ能力」が欠かせません。リテリング指導においては、本文の言い回しをどのように変えることができるかを生徒と一緒に考える時間を設けると、生徒は言葉の使い方に敏感になり、表現の幅も広がります。

ここでは、リテリング指導の中で特に応用が利きやすく、また指導しやすい代表的な3つのパラフレーズのコツをご紹介します、それを実際の授業でどのように扱えるかを、教室でのやり取りの例を交えて示します。

パラフレーズのコツ①：語彙の言い換え(類義語・説明語)

ある語句をより易しい語や具体的な表現に言い換えることで、生徒の理解と表現が共に深まります。

- Original: The Internet has become an important means of communication.
(原文：インターネットは重要なコミュニケーション手段となりました。)
- Paraphrase: The Internet is now a good way for people to talk and share ideas.
(言い換え：インターネットは現在、人々が会話し、アイデアを共有する良い手段となっています。)

“important means of communication” という抽象表現を “good way to talk and share ideas” のように具体的に言い換えると、生徒にも伝わりやすくなります。

パラフレーズのコツ②：受動態 ↔ 能動態の変換

受動態の文を能動態に直すと、構文がよりシンプルになり、生徒自身が主語を意識しやすくなります。

- Original: Content is usually made by a limited number of professionals.
(原文：コンテンツは通常、限られた数の専門家によって作成されます。)
- Paraphrase: Usually, only a few experts make the content.
(言い換え：通常、コンテンツはごく少数の専門家によって作成されます。)

“is made by” のような受動文は、受け身のため主体が見えにくくなります。能動態に変えることで、主語(a few experts)をはっきりさせることができます。

パラフレーズのコツ③：名詞 ↔ 動詞(動名詞)への変換

名詞中心の硬い文を、動詞にすることで動きのある自然な表現になります。

- Original: Inventions can change people's lives.
(原文：発明は人々の生活を変えることができます。)
- Paraphrase: Inventing new things can make people's lives different.
(言い換え：新しいものを発明することは、人々の生活を変化させることができます。)
“Inventions” を “Inventing new things” に

6)ライティング(Essay Writing)

各ユニットやレッスンの最後には、必ずと言ってよいほどライティングタスクが設定されています。しかし、これらの活動は「書かせっぱなし」になってしまったり、時間が足りずに飛ばされてしまったりすることが少なくありません。けれども、生徒の英語運用力を高めるためには、こうした

変えることで、行動や動作を強調でき、話し手の視点が表れやすくなります。

リテリング活動では、原文を丸暗記することではなく、自分の言葉で意味を再構成することが重要です。代表的なパラフレーズの型(語彙の言い換え、文構造の変換、名詞と動詞の交替)を生徒が理解し使いこなせるようになることで、表現の幅が広がり、自信をもって話す・書くことができますようになります。特に、CEFR A2からB1を目指す段階では、複雑な文法知識よりも、このような「言い換えによる運用力の伸長」が鍵となります。

ライティングタスクにも丁寧に取り組ませることが重要です。

たとえば、『Crossroads English Communication I』の Unit 2, Passage 1 の最後には、以下のような問いが提示されています。

Express Yourself

Do you spend a lot of time using your smartphone or computer?

How important is it for you?

※日本語訳は巻末をご参照ください。

しかしながら、このような問いに対して、「自分の意見を書いてみましょう」とだけ指示しても、正直なところ、生徒の多くはあまりモチベーションが上がらないのが実情です。そこで効果的なのが、ライティングの前に**ディスカッションの機会を設ける**ことです。

たとえば、2~3人のペアやグループで、まずこのトピックについて自由に話し合う活動からスタートさせます。クラスメイトと会話をする活動は、黙って一人で読む・書く活動よりも楽しいと感じる生徒が多く、自然と発話の意欲も高まります。時間は

1～2分程度で構いません。自由に話をさせてみましょう。自分の考えを言葉にし、友達の意見を聞くことによって、ライティングの際に使えるような表現や語彙、自分の立場が整理され、結果的にスムーズに書き始めることができます。

もう1つのおすすめの工夫は、**質問を複数用意し、その中から1つ選んで書かせる方法**です。同じ1つの問いに対して全員が書くと、意見が似通ってしまい、輪読や発表の際にも同じような内容ばかりになってしまうこと

があります。また、特定の質問に対してアイデアが全く浮かばず、書き始められないという生徒も出てくるかもしれません。

そこで、以下のように関連する質問を複数提示し、その中から生徒が自分で1つ選べるようにすることで、それぞれが最も書きやすいトピックに取り組むことができます。輪読や発表を行った際にも、多様な視点や意見が出てくるため、聞き手としての関心も持続しやすくなります。

★ Choose one of the following questions and write your opinion.

1. Do you spend a lot of time using your smartphone or computer?
2. Do you think the Internet is a good or bad thing for society? Why?
3. How do you get information every day? Do you think it is reliable?
4. What do you do to use your smartphone or computer in a healthy way?
5. Do you prefer print media (books, newspapers) or digital media (websites, videos)? Why?



Class ____ No. ____ Name _____

また、ライティングの際には論理的な構成を意識させることも大切です。たとえば OREO(Opinion-Reason-Example-Opinion) や PREP(Point-Reason-Example-Point) と いった枠組みを用いることで、単なる意見表明ではなく、理由や具体例を伴った明確な主張ができるようになります。こうした構成力の指導こそが、CEFRのA2レベルとB1レベルとの大きな違いであり、生徒の表現の質を一段階引き上げる要素となります。

このように、ライティングタスクもただ「書かせる」のではなく、話す活動と組み合わせたり、トピックの選択肢を用意したり、論理構成の枠組みを導入したりすることで、生徒にとってより興味深く、かつ運用力を高めるための有効な活動へと変わっていきます。丁寧なサポートを加えることで、生徒のアウトプットの質が明確に向上していくことを実感できるはずです。

3. おわりに：CEFR A2からB1への架け橋としての授業設計

本稿では、CEFR A2レベルの学習者がB1レベルへと発達していくために必要な英語運用力の育成を目指し、検定教科書『Crossroads English Communication I』を用いた具体的な授業実践例を通して、その可能性と工夫について考察してきました。

単なる語彙・文法の習得にとどまらず、「意味のある文脈の中でのやりとり」や「自分の考えや意見を他者と共有する経験」を通して、言語を「使う力」を育てることがA2からB1への移行に不可欠であるという立場から、様々な取り組みを実践例として紹介しました。

これらの実践を通して共通して意識したことは、生徒が自分の言葉で「考え」「伝え」「応答する」という流れを体験できるようにすることであり、それがまさにCEFR B1レベルで求められる自立的な言語運用力の土台となります。

また、検定教科書の持つ本文・語彙・タスクなどの構成要素は、それ単体では発話量

や思考の深まりに限界があります。しかしながら、本文を適切に「前後に拡張」し、「音読」「インタラクション」「リテリング」「ディスカッション」「ライティング」といった一連の活動へと有機的につなげることで、生徒たちはより豊かな言語経験を積むことができます。

学習者の多くが「英語を使うこと」に対して自信を持ってないまま学年を進めていく中で、CEFR A2からB1への移行は、単にスコアやテストの点数の上昇ではなく、「自分の言葉で、相手に伝える英語」が使えるようになることを目指すものです。その意味で、教科書という「静的な教材」に「動的な活動」と「言語理論に基づいた支援」を加えることは、学習者の言語発達を支える上で不可欠だと言えます。

今後も、CEFRの観点と第二言語習得の理論的知見を踏まえた授業改善を継続し、現場の実践が理論とつながる形で展開されていくことを願ってやみません。

P.4

歴史上、多くの素晴らしい発明が生まれました。例えば、車輪、紙、蒸気機関などです。発明は人々の生活を変えることができます。新しいビジネスや文化を生み出すこともできます。特に、最近の2つの発明である個人用コンピュータとインターネットは、この点で特に顕著です。インターネットは、多くの人々にとって重要なメディア形態であり、重要なコミュニケーション手段となっています。この新しいメディア形態は、印刷メディア(本、新聞、雑誌)や放送メディア(ラジオ、テレビ)といった従来のメディア形態と、少なくとも2つの点で異なります。

まず、インターネットでは情報を容易に取得したり送信したりできます。ほぼいつでも情報にアクセス可能です。人々はインターネットを多様な方法でコミュニケーションに利用できます。画像や動画、メッセージを送信するのは簡単なので、人々はそれらを大量に送信し閲覧しています。しかし、これは問題にもなり得ます。人々はスマートフォンやコンピュータに過度に時間を費やしています。

第二の相違点はコンテンツです。新聞、雑誌、テレビ、ラジオなどの他のメディアでは、コンテンツは通常、限られた数の専門家によって作成されます。しかし、現在ではほぼ誰でもより多くの情報を入手できますが、注意が必要です。コンテンツを作成した人物が分からない場合もあり、一部の情報は不完全または誤っている可能性があります。

インターネットは情報収集と共有の重要な手段となりました。インターネットと他のメディアの違いがもたらす本当の影響は、数年経たないと分からないでしょう。しかし、一つだけ明確なことがあります。インターネットは既に私たちの文化の不可欠な一部となっています。

P5

1.新しい情報を得るために最もよく使うものは何ですか？

- a) 本 b) インターネット c) 新聞 d) テレビ

2.なぜそれを使いますか？

P5

(T: 先生 / S: 生徒)

T: 新しい情報を得るために、最もよく何を使っていますか？本を使う人が最も多いのは誰ですか？手を挙げてください。インターネットを使う人が最も多いのは誰ですか？(… 中略 …)このクラスでは、多くの人が新しい情報を得るためにインターネットを最もよく使っています。では、なぜそのメディアを使うのか聞いてみましょう。あなたは新しい情報を得るために最もよく何を使っていますか？

S: 私はインターネットを最もよく使っています。

T: なぜインターネットを最もよく使うのですか？

S: スマートフォンでインターネットを使えるからです。他のメディアよりも新しい情報を得るのに簡単だからです。

P7

T: アンケート調査によると、2人の生徒が新聞で新しい情報を得ていますが、ほとんどの皆さんはインターネットを利用していません。新聞を使う人はいますか？構わなければ手を上げていただけますか？ああ、タツヤ。教えてくれてありがとう。なぜ新聞で新しい情報を得るのか、理由を教えてくださいませんか？

S: はい。まず、私のクラスメートの多くとは違い、スマートフォンを持っていません。私の両親は厳しく、おそらくSNSの悪影響を心配して、スマートフォンを許可してくれません。代わりに、新聞を毎日読んで、そうやって最新の情報を得ています。

T: わかりました、タツヤ、あなたの例を共有していただきありがとうございます。新聞を毎日読む習慣は素晴らしいですね。現代の若者は新聞を読む人が少ないので、感心しました。先ほども述べたように、皆さんはスマートフォンを持っているため、インターネットを利用していません。インターネットやスマートフォンの利用頻度や使い方を共有していただけますか？マキコはどうですか？

S: 私は毎日スマートフォンを使っています。インターネットやソーシャルメディア、ゲームアプリを利用しています。スマートフォンに少し依存しているので、利用時間を制限すべきだと思います。

T: マキコ、共有してくれてありがとう。クラスの調査結果によると、マキコのようにスマートフォンでインターネットをほぼ毎日利用している人がほとんどです。私が皆さんの年齢だった頃、インターネットもスマートフォンもなかったため、私たちは本や新聞、テレビなどの他のメディアを利用していました。インターネットと他のメディアの違いは何でしょうか？インターネットにはどのような危険があるのでしょうか？これらの質問について、パートナーと議論してください。

P8

1. お湯が非常に熱く、カップから蒸気が立ち上っていた。
2. 私の兄は最近、新しい携帯電話を手に入れました。
3. 昨夜、そのニュースはテレビで放送され、誰もが視聴できました。
4. インスタグラムに休暇の写真をアップロードして、友達が見られるようにしたいです。
5. 私の宿題は未完成です。なぜなら、問題番号5を終わらせなかったからです。
6. 「パリ」という回答は誤りです。なぜなら、ドイツの首都はベルリンだからです。
7. 薬は効果がありました——今はずっと気分が良くなりました。
8. 水は生命に不可欠です。私たちは水なしでは生きられません。

P9

1. 水を沸かしたときに上がる熱い霧やガスを何と呼びますか？
2. 昨日や先週など、最近起こったことを表す言葉は何ですか？
3. テレビやラジオの番組を多くの人々が同時に視聴したり聴取したりできるように送信することを表す言葉は何ですか？ または、同時に視聴したり聴取したりできるように送信することを表す言葉は何ですか？
4. ファイル、写真、または動画をインターネットやウェブサイトにアップロードすることを何と呼びますか？
5. 「未完成」や「一部欠落している」という意味の単語は何ですか？
6. 間違っただけのような、真実ではないものや正しいものではないものを何と呼びますか？
7. 行動や出来事の結果や結末、つまりそれによって起こることを何と呼びますか？
8. 「非常に重要」や「必要不可欠」という意味の単語は何ですか？つまり、必ず持たなければならないものやしなければならないことを指す言葉です。

P13

まず、インターネット上で情報を入手したり送信したりすることが容易です。ほぼいつでも情報を閲覧できます。インターネットは多様な方法でコミュニケーションに利用できます。画像や動画、メッセージの送信が簡単であるため、多くの人々がそれらを送信したり閲覧したりしています。しかし、これは問題となる可能性もあります。人々はスマートフォンやコンピュータに過度に時間を費やしています。

P13

(T: 教師 / Ss: 生徒)

T: まず、インターネット上で情報を簡単に取得したり送信したりできます。

Ss: まず、インターネット上で情報を簡単に取得したり送信したりできます。

T: インターネット上で情報を簡単に取得したり送信したりできますか？

Ss: はい、できます。

T: 彼らはほぼいつでも情報にアクセスできます。

Ss: 彼らはほぼいつでも情報にアクセスできます。

T: 人々はインターネットをさまざまな方法でコミュニケーションに利用できます。

Ss: 人々はインターネットをさまざまな方法でコミュニケーションに利用できます。

T: 写真を送ったり、動画を共有したり、メッセージを送信したりするのが簡単なので、人々はそれらをたくさん送ったり見たりしています。

Ss: 写真、動画、メッセージを送信するのは簡単なので、人々はそれらをたくさん送信し、閲覧しています。

T: インターネットで人々はどのようなものを送信しますか？

Ss: 写真、動画、メッセージを送信します。

T: タカシ、インターネットで人々はどのようなものを送信しますか？

Ss: 写真、動画、メッセージを送信します。

P14

1. 歴史上、素晴らしい発明の例を3つ挙げてください。
→ 車輪、紙、蒸気機関。
2. 人々の生活を大きく変えた最近の発明を2つ挙げてください。
→ パーソナルコンピュータとインターネットです。
3. インターネットが印刷メディアや放送メディアと異なる点の一つは何ですか？
→ 人々は情報を簡単に取得したり送信したりできることです。
4. インターネットを使用する際、なぜ注意が必要なのでしょう？
→ なぜなら、一部の情報は不完全または誤っている可能性があるからです。

P15

5. 毎日使っている発明は何ですか？
→ スマートフォンを使っています。
6. インターネットからニュースを得ることは好きですか？
→ はい、速いからです。 / いいえ、テレビの方が好きです。
7. オンラインで写真や動画を送信しますか？
→ はい、友達に写真をよく送ります。
8. インターネットは学校に良いと思いますか？
→ はい、情報を簡単に探すことができます。

P15

あなたは毎日インターネットを使っていますか？

→ はい、使っています。 / いいえ、使っていません。

なぜインターネットが重要だと思いますか？

→ 情報を迅速に得られるからです。

学習にインターネットを使う良い点と悪い点は何か？

→ 学習にインターネットを使うことは、役立つ動画や記事を見つけることができるため、有益だと思います。しかし、生徒が集中しなかったり、誤った情報に遭遇したりする可能性があるため、問題になることもあります。

※日本語訳

P16

T: 最近の発明で人々の生活を変えたものは何ですか？

Ss: パーソナルコンピュータとインターネットです。

T: タツヤ、その質問に答えられますか？

S: パーソナルコンピュータとインターネットです。

T: 素晴らしい。毎日インターネットを使っていますか？

Ss: はい。/ いいえ。

T: マキコ、あなたはいかがですか？

S: はい。スマートフォンで(インターネットを)使っています。

P19

重要な発明は数多く存在し、車輪、紙、蒸気機関などがその例です。最近の発明である個人用コンピュータとインターネットは、私たちの生活を大きく変えました。インターネットは新しい種類のメディアです。書籍やテレビと比べて、2つの点で異なります。まず、人々はいつでも簡単に情報を取得したり送信したりできます。写真や動画を共有するために利用されますが、オンラインに過ごす時間が過剰になる可能性があります。第二に、インターネット上のコンテンツは、専門家だけでなく多くの人々によって作成されています。これにより、多くの情報を得ることができますが、その一部は真実でない可能性もあります。インターネットは現在、私たちの文化の重要な一部となっており、その利用方法について考えることが重要です。

P19

T: 歴史上、多くの重要な発明がありました。いくつかの例を挙げてもらえますか？

Ss: 車輪。/ 紙。/ 蒸気機関。

T: そうです！では、私たちの生活を大きく変えた最近の発明を2つ挙げてください。

Ss: パーソナルコンピュータとインターネット。

T: その通りです。現在、インターネットは「新しい種類のメディア」と呼ばれています。本やテレビのような従来のメディアと比べて、どのような点が異なるでしょうか？

Ss1: 情報を簡単に送ることができます。

T: そうですね。いつでも情報を送受信できます。人々はそれを何に利用しているのでしょうか？

Ss2: 写真や動画を共有するためです。

Ss3: YouTubeを見るためです。

T: その通りです。しかし、使いすぎると問題はあるのでしょうか？

Ss: オンラインで過ごす時間が長くなりすぎるかもしれません。

T: そう、それが一つの違いです。もう一つの違いは何ですか？インターネット上のコンテンツは誰が作成しているのでしょうか？

Ss1: 多くの人々です。

Ss2: 専門家だけではありません。

T: そうですね。では、インターネット上のすべての情報は真実ですか？

Ss3: いいえ、一部は真実ではありません。

※日本語訳

T: そうです、それが重要な点です。インターネットは現代の文化の大きな一部ですが、どのように使うかを考える必要があります。なぜそれが重要だと思いますか？

Ss: 良い面と悪い面があるからです。

T: そうです。よく理解できていますね。

P21

自分を表現しよう

スマートフォンやコンピュータを長時間使っていますか？

あなたにとって、それはどれほど重要ですか？

MEMO

TOEFL Primary® / TOEFL Junior®についての最新レポート

